sanwa company

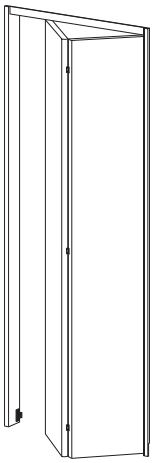
CFP

Color Field Painting

TALL CLOSET DOOR

CFP施工・取扱説明書

《 クローゼット折れ戸 》



●この説明書には下記のマークを付けています。

⚠ 拡大損害が予想される事項

禁止行為　分解禁止　必ず行う

●第三者に譲渡・貸与される場合も、この説明書を必ず添付してください。

●この説明書は保証書を兼用しています。大切に保管してください。

●『本製品』に関するお問い合せは、お買い求めの販売店もしくは弊社にご連絡ください。

⚠

このたびは当社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この商品は、一般住宅用の室内建具でシンプルデザインのクローゼット折れ戸です。
この取扱説明書をよくお読みいただき、安全にご利用ください。

1 施工上の注意

CFPを長期間、安全にご利用いただけるように、またトラブルの無い確実な施工をしていただくために、以下のことを必ずお守りください。

CFPは一般住宅の室内用ドアです。他の用途へのご使用はおやめください。

扉・枠・金具に工具をぶつけたり、運搬時に引きずらないようご注意ください。傷を付ける恐れがあります。

照明、ストーブ等に近づけすぎないでください。熱によるミートの変色、ふくれ等の原因になります。

枠の水平・垂直を確認してから取り付けてください。扉が閉まらない原因となります。

工事が終了するまでの間、扉を壁に立て掛けたり、床に寝かせて保管しないでください。

2 安全上の注意

ご使用の前によく読んでください。

注意　ケガや器物損傷の原因となる。		
絵表示	重要事項	危害・損害
⃠	●『折れ戸』と枠のすき間に手や指をいれない。	指の挟み込みなどケガのそれがある。
⃠	●小さな子どものいる家庭では、ぶつかったり、ぶら下がったりしないようにする。	ケガや器物損傷の原因になる。
⃠	●『折れ戸』を急激に開閉するなど強い衝撃を与えない。	ケガや『折れ戸』など器物損傷の原因にある。
⃠	●部品に潤滑油やグリスを注さない。	部品の割れや変形、変色を生じるおそれがある。
⃠	●ネジが緩んだ状態で使用しない。	金具などに負担がかかり、『折れ戸』開かなくなるおそれがある。定期的にネジの締め直しを行う。
⃠	●ストーブなどの熱源を近づけたり、直接クーラーの風をあてたりしない。	『折れ戸』が変形するおそれがる。
⃠	●分解・改造をしない。	器物損傷の原因になる。
⃠	●『折れ戸』に開閉方向以外の力を加えて、操作しない。	『折れ戸』がガイドやレールから外れるおそれがある。
⃠	●『折れ戸』にもたれない。	『折れ戸』の破損や脱落のおそれがある。
⃠	●レール上や、開いた『折れ戸』の邪魔になる場所に物を置かない。	『折れ戸』や器物の損傷のおそれがある。
⃠	●『引手』以外の箇所を持って操作しない。	指詰めなどケガのおそれがある。

3 お手入れの方法

注意　ケガや器物損傷の原因となる。		
絵表示	重要事項	危害・損害
⃠	●シンナー、ベンジン、アルコール及び有機溶剤を含むクリーナーなどは使用しない。	変色やクラックなどの劣化の原因になる。

4 準備

●梱包を開けて部品を確認してください。

●扉は上吊り式です。まぐさは必ず強度のある梁から、吊束又は吊りボルトで補強してください。

梁が弱いと上枠が垂れ下がり、扉がスムーズに開閉できません。

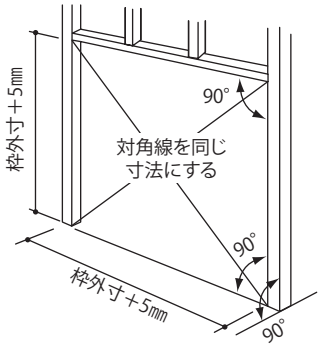
●開口部の幅・高さの寸法を十分に確保してください。

	3尺間口	4.5尺間口	9尺間口	12尺間口
梁の断面寸法	105×105㎜以上	105×180㎜以上	105×300㎜以上	105×360㎜以上

●下枠・沓摺が必要な場合は現場手配ください。

●柱の垂直、床・まぐさの水平を、下げ振り・水準器でよく確認してください。垂直、水平がでていない場合、下記の原因となります。

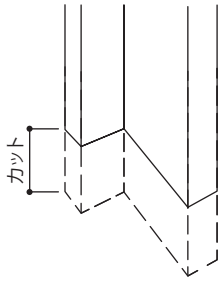
図のようなことがあった場合、扉が閉まらないことがあります。



5 施工の前に

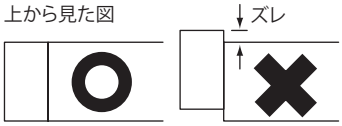
枠を床下に埋めこまない場合は枠下端をカットしてください。

枠を床下に埋めこむ場合は枠下端を床厚さに合わせてカットしてください。
詳細は寸法図を確認してください。



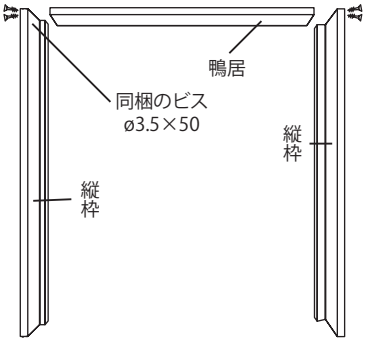
三方枠を組み立ててください。
※同梱のビスをご使用ください。

上から見た図

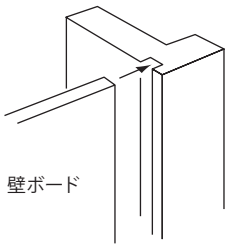


正面から見た図

※縦枠、控壁と鴨居にズレがないことを確認してください。

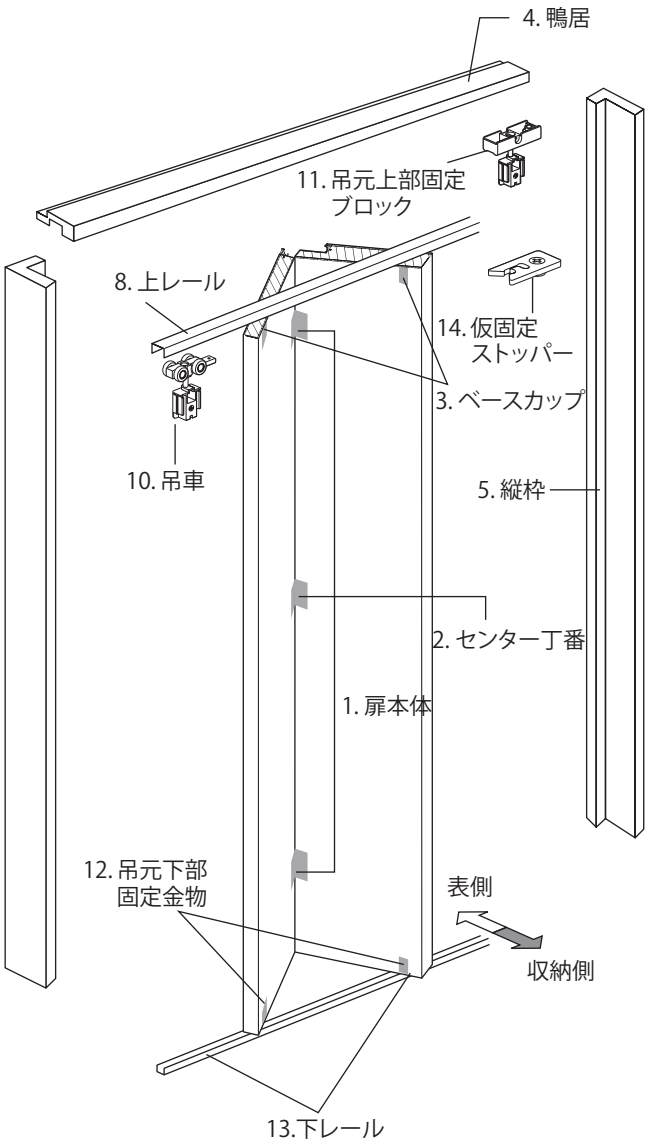


固定枠・薄壁枠の場合は、必要に応じて枠の裏側に壁ボードの溝加工を行なってください。



6 全体図

《固定枠》



※下レールはW2422・W3218タイプのみとなり、
W735・1190・1626は下レールはありません。

《扉》

番号	名称	数量				
		W735	W1190	W1626	W2422	W3218
1	扉本体	1	2	2	3	4
2	センター丁番(扉に取付済)	3	6	6	9	12
3	ベースカップ(扉に取付済)	4	8	8	12	16

《枠》

番号	名称		扉固定タイプ			扉フリータイプ	
			W735	W1190	W1626	W2422	W3218
4	鴨居		1				
5	縦枠		2				
6	枠組立てビス ø3.5×50 (アトムスーパーハイロー)		4				
7	施工用ビスセット						
	ビス穴隠しシール 縦枠・鴨居用		小 10				
	枠調整ビス	縦枠用 ø3.5×50	8				
		鴨居用 ø5.2×55	4	5	6	9	12
8	上レール		1				
	取付ビス ø3.5×32		4	5	6	9	12
9	振れ止め (折戸側・開き戸側)		-	1	1	-	-
10	吊車		1	2	2	6	8
11	吊元上部固定ブロック		1	2	2	-	-
12	吊元下部固定金物		1	2	2		
	下部ガイド					6	8
13	下レール		-	-	-	1	1
	取付ビス ø3.5×16		-	-	-	9	12
14	仮固定ストッパー		-	-	-	4	4

《その他》

番号	名称	数量
15	CFP(折れ戸)施工・取扱説明書 (本紙)	1

※必ずお施主様にお渡しください。

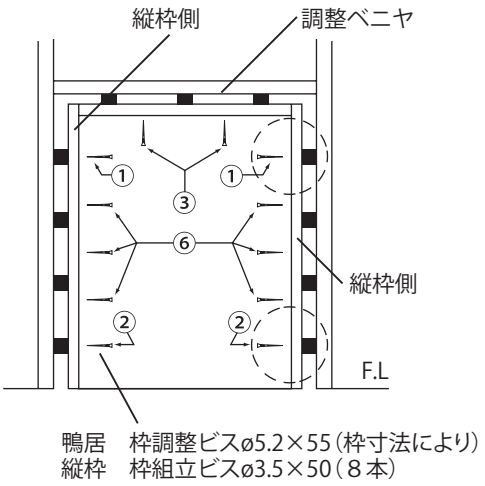
7 施工手順

《開口部への枠の取付》

①枠を開口部にはめこんで縦枠側の上部を枠取付ビス（ø3.5×50）で仮固定してください。

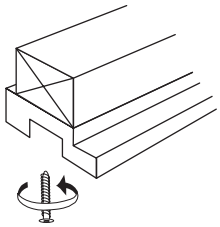
②下げ振りを使って垂直をだしてから、縦枠の下部を枠取付ビス（ø3.5×50）で仮固定してください。

③水準器で上枠の水平を見ながら鴨居を枠調整ビス（ø5.2×55）で仮固定してください。

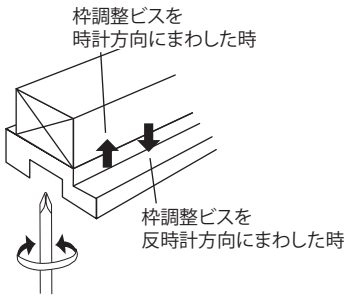


④鴨居の上下調整は次の様に行ってください。

A. まず枠調整ビスで鴨居を固定します。



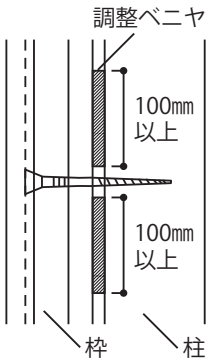
B. 枠調整ビスを回すことで、梁と鴨居の間の隙間を調整することが出来ます。



C. 鴨居と梁の隙間を調整したあと、隙間に木工ボンドを塗った調整ベニヤ（現場調達）を入れ、ビスで締め付けて下さい。

●枠調整ビスでの調整には必ず手動ドライバーをご使用ください。
電動ドライバーを使用すると、ビス頭がつぶれ調整ができなくなります。

⑤鴨居調整後、枠取付ビスの上下に木工ボンド（現場手配）を塗った調整ベニヤ（幅＝柱幅程度 × 高さ＝100㎜以上）を入れてください。

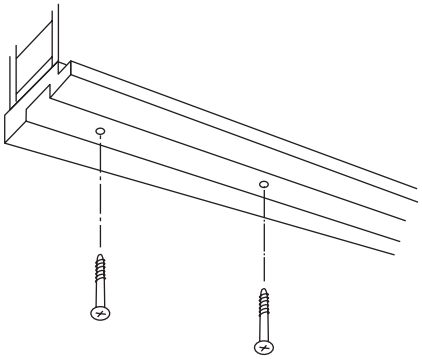


手順①②③④部分の調整ベニヤは左図のようにビスの上下に入れてください。

調整ベニヤを入れないと、枠がぐらつき、丁番が破損したり、壁と枠の間にスキマが発生する恐れがあります。

枠の水平・垂直を必ず確認してから取り付けてください。
扉が閉まらない原因となります。

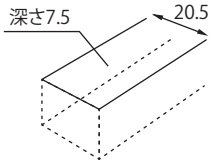
鴨居は同梱の枠調整ビスでリード穴から固定してください。

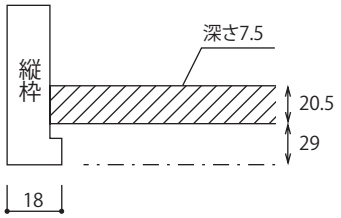


8 床の溝加工

W2422・3218の場合

※堀込溝の位置は縦枠の仕上り寸法から追い出して加工位置を決定してください。

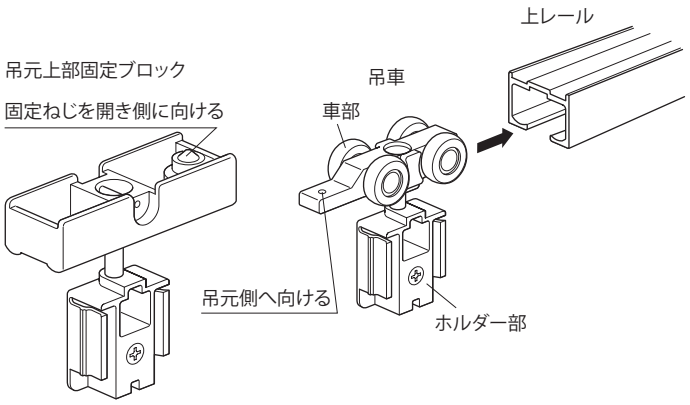


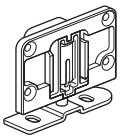


9 レールの取付

《レールの取付け》W735・1190・1626の場合

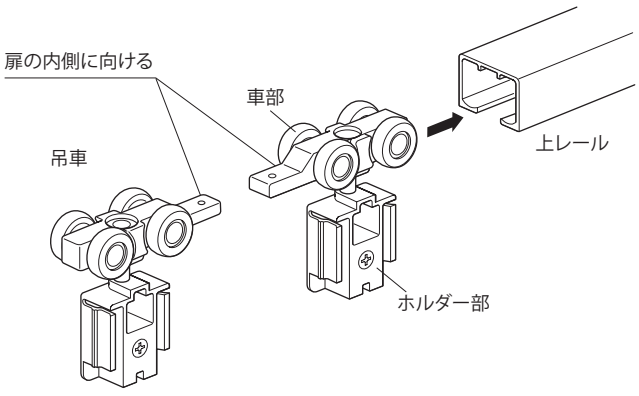
①上レールを取り付ける前に、図に示す方向で、吊車をレール内に挿入します。
②それから上枠にレールを取り付けてください。

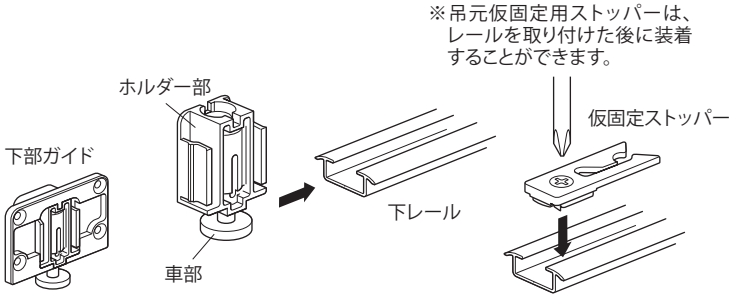




《レールの取付け》W2422・3218の場合

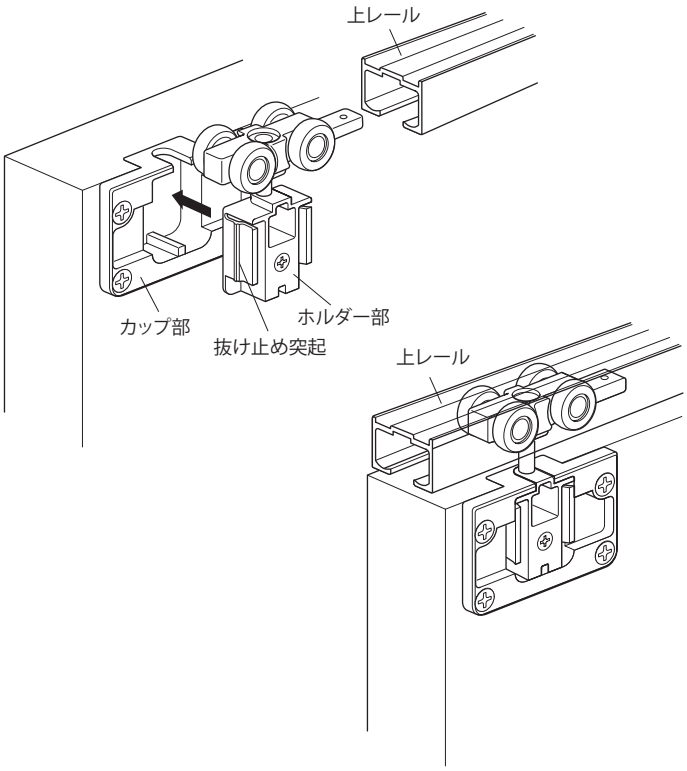
①レールを取り付ける前に、図に示す方向で、戸車及び下部ガイドの車部をレール内に挿入します。
②それから上枠にレールを取り付けてください。
③吊元仮固定用ストッパーを使用する場合は、最後に、上下レールに装着してください。





10 戸の吊込み

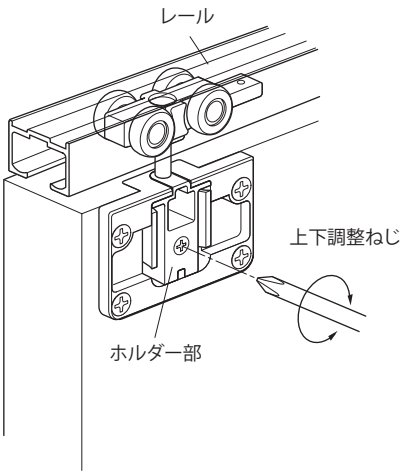
（戸に取り付けた吊車及び下部ガイドの）カップ部分に、（レールに挿入してある）ホルダー部を差し込みます。 ※W735・1191・1626の場合は上レールのみ
ホルダー部の抜け止め突起がカップ内側の切り欠き部にしっかり嵌った時、パチンという音がしますので、必ずご確認ください。



11 戸の位置調整

戸の位置が上がり過ぎたり、下がり過ぎたり、傾いたりしている場合
➡吊車で、上下調整してください

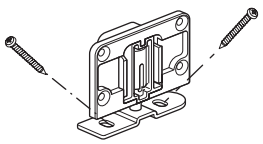
①調整は戸を吊ったままの状態できます。
②ホルダー部の上下調整ねじを回せば戸の上下調整ができます。



12 吊元下部の固定

《固定方法》W735・1190・1626のみ

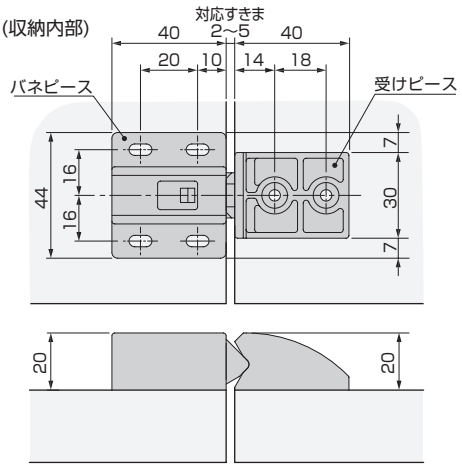
戸の高さ調整後吊元下部固定金物を付属ビスで床に固定してください。



13 振れ止めの調整

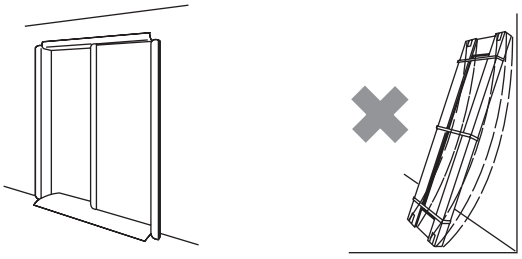
《取付方法》W1190・1626タイプのみ

■あらかじめ、扉の建てつけ・動作を確認して下さい。
①バネピースを、端部を木口面にそろえて添付ねじで取り付けます。
②受けピースを、バネピースの高さにあわせて位置決めし、端部を木口面にそろえて取り付けます。



14 養生

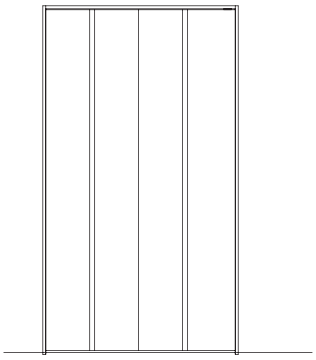
工事が完成するまで扉・枠をダンボールなどで養生してください。その際、養生テープを枠・建具に直貼り使用すると、表面シートが剥がれる事がありますので、直接貼らないようにしてください。金具は布・ミラーマットなどで養生してください。



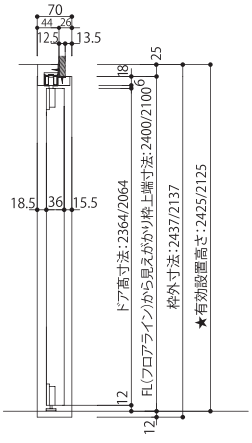
※扉は壁に立てかけて保管しないでください。反りの原因になります。
※扉は梱包ケースに再度入れ、平積み保管してください。

15 クローゼット折れ戸寸法図

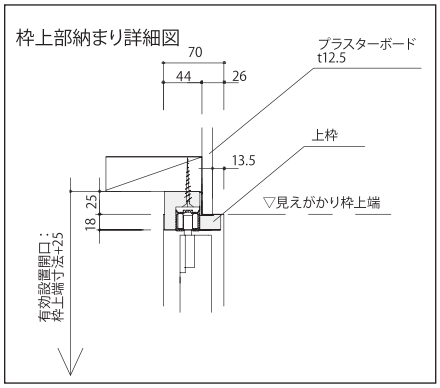
正面図



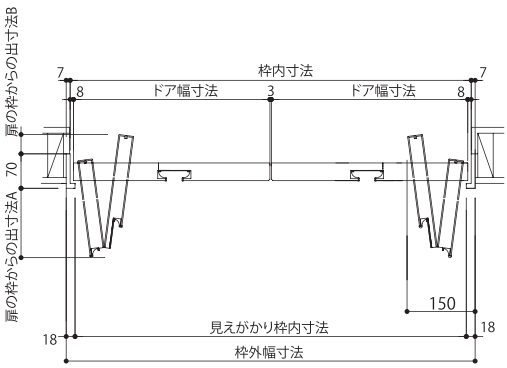
縦断面図



枠上部納まり詳細図



横断面図

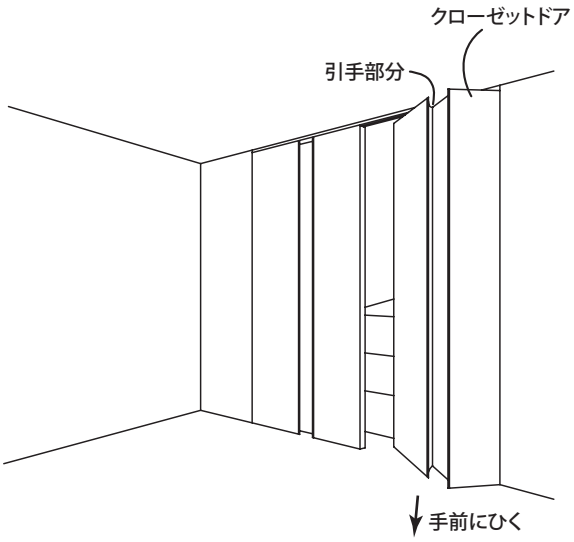


W735 左(L)吊元　W735 右(R)吊元　W2422 左右右(LRR)吊元　W2422　左左右(LLR)吊元

	W735	W1190	W1626	W2422	W3218
ドア幅寸法	705	579	797	795	795
枠内幅寸法	721	1176	1612	2408	3204
枠外幅寸法	735	1190	1626	2422	3218
見えがかり枠内寸法	699	1154	1590	2386	3182
扉の枠からの出幅寸法A	261	198	305.5	305.5	305.5
扉の枠からの出幅寸法B	71	71	71	71	71

16 使用方法

『引手』を持って開閉する。



17 故障かな?と思ったら

Q：『折れ戸』が傾いてきた。
A：お買い上げの販売店に連絡してください。

Q：『折れ戸』が引っかかる。
A：レールなどにゴミが詰まっていませんか。定期的に掃除することをお勧めします。ゴミを取り除いても問題が解消しない場合は、お買い上げの販売店に連絡してください。

Q：『折れ戸』に反りがでてきた。
A：反りについて
木材を原料とする木質材料（合板・MDF・パーティクルボードなど）を加工して作られた内装ドアは、大気中の水分を吸収・放出することで伸縮する特性がある。この大気中の水分の吸収・放出は、内装ドア周辺の温度・湿度などの環境条件の変化に応じて変化に応じて発生するもので自然現象と言える。とくに内装ドアの室内面側と室外面側の環境条件が大きく異なる場合、「反り」という現象が発生することがあります。

《反りの発生を出来るだけ抑える方法》
ご使用の環境や設置場所によって、反りが発生する場合がある。反りの発生をできるかぎり抑える方法として、以下の事柄に注意してください。

※エアコンや暖房器具などを使用になる場合、ドアに直接熱風熱気が当たらないようにする。
※冷暖房や除湿などで、室内外の環境差を極端に大きくしないでください。
※ドアに直接日光が当たる場合、カーテンやすだれで日光を遮る。発生した反りは室内外の環境条件を近づける事によって、小さくなる事があります。
※発生した反りは、室内側と室外側の環境条件を近づける事によって、小さくなる事があります。

18 アフターサービス

《保証について》

下記保証書をご提示ください。故障した場合記載内容により無料交換いたします。

保証書

品名	CFP
保証期間	対象：建具 期間：お買上げ日から1年
お買上げ日	年　月　日
お客様	お名前 ご住所 電　話（　　）
工事店	店　名 電　話（　　）

当社製品はお買上げ日から1年間無料交換いたします。
保証は日本国内において有効です。

保証期間中でも以下の場合は有料交換となります。
●取扱説明書および注意ラベルによらずご使用になり、故障及び損傷した場合。
●建物の設計・施工に起因する場合。
●取付、設置時の不注意または過失による故障及び損傷。
●引渡し後の設置場所の移動、落下などによる故障や損傷。
●不当な修理や改造による故障及び損傷。
●火災、天災、地変、その他の不可効力による故障や損傷。
●建築躯体の強度不足、歪み、劣化、その他本体製品以外の不具合による故障や損傷。

（ご連絡先）　株式会社サンワカンパニー

TEL：0120-468-838　FAX：0120-382-096

※お客様でご記入をお願いしたします。
（サービスを依頼される際にお役に立ちます）

《廃棄処分について》

廃棄処分の際は必ず専門業者に依頼してください。

19 基本仕様

《保証について》

製品改良のため、仕様・デザインなど、断りなく変更することがありますので、ご了承ください。

品名：CFP　クローゼット折れ戸
用途：一般住宅室内専用ドア
本体サイズ：高さ：2100㎜・2400㎜
　　幅：735㎜・1190㎜・1626㎜・2422㎜・3218㎜
カラーバリエーション：マッシロ・モエギ・ベンガラ・ルリコレ・マッキッキ
セット内容：扉・枠・取付金物
材質：

	表面	基材	芯材
建具	オレフィレシート	MDF	MDF・LVL パーティクルボード
枠	オレフィレシート	上枠：LVS 上枠以外：MDF・ パーティクルボード	―

原産国：日本

●●● sanwacompany

株式会社サンワカンパニー / SANWA COMPANY LTD.
● HEAD OFFICE　541-0041　大阪市中央区北浜2-1-7　TEL 06-6229-1024　FAX 06-6229-1082
● TOKYO　107-0062　東京都港区南青山4-18-16-B1　TEL 03-5775-4763　FAX 03-5775-4764
● OSAKA　541-0042　大阪市中央区今橋2-3-21-3F　TEL 06-6229-1034　FAX 06-6229-1310
● NAGOYA　461-0004　名古屋市東区葵1-13-8-1F　TEL 052-935-2217　FAX 052-935-2218